

懐かしのSL 魅力たっぷり

室蘭写真団体連合会事務局長の山田しげきさん(77)＝登別市新川町＝の写真展「北の大地のSL汽車風景～汽笛はるかに最後の蒸気」が、知利別町の製鉄記念室蘭病院ギャラリーで開かれており、1970年代に道内各地で撮影したSLの写真が披露されている。山田さんは「当時の黒煙や汽笛、ドラフト音を思い出し、懐かしんでほしい」と話している。
(成田真梨子)

写真歴は40年以上。1971年(昭和46年)創刊の読者公募によるグラフィック雑誌「世界鉄道写真全集」を見て奮起し、室蘭、函館、日高、宗谷、石北の各本線、千歳、胆振、瀬棚の各線を巡り、SLの迫力と風景を収めた。

急勾配の冬の稲穂峠で黒煙を巻き上げ力強く走行するD51形、長万部のエゾカシノウの群集に囲まれたD52形、雪の樽前山を背景に競走馬がいる社台牧場のそばを駆け抜けるC57形、鶴川の夕日に車体と煙のシルエットが浮かぶC11形など、魅力的な13点を並べた。

2012年(平成24年)

5月に室蘭港開港140周年、室蘭本線開業120周年を記念して、登別駅―室蘭駅を臨時運行した「SLみなと室蘭140周年号」のポスターも展示。来院者たちは足を止めて「懐かしいね」とうっとり鑑賞していた。

展示は11月末まで、同日には写真を入れ替える。



70年代に道内各地で撮影した懐かしいSLの写真を披露している山田さん